

自然教育園の鳥類について (1979~1981 年)

小原 伸一*・坂本 直樹**・千羽 晋示***

A Note on the Birds of the National Park for Nature Study (Supplement 1979~1981)

Shinichi Obara*, Naoki Sakamoto** and Shinji Chiba***

はじめに

自然教育園の鳥類については、1978 年にそれまで記録された目録と若干の生態的観察の記述を加え報告し、1981 年にその後の追加種などについて簡単な報告をした。

今回の報告は、1981 年のものと一部重複するが、1979 年以降 1981 年までの記録をもとに最近の自然教育園に見られる鳥類の生息状況について記したい。

目録に追加する記録

カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

カイツブリ *Podiceps ruficollis poggei* (REICHENOW)

20・IV~31・X・1980 (繁殖・3 羽巢立), 10・III~9・VII・1981 (21・III: 3 羽, 2・IV: 巢完成, 15・IV: 巢につく, 19・V: 巢なくなる, 14・VI: 1 成・2 幼, 営巣場所不明), 15・I・1981 (1 羽: 水生).

1981 年は、昨年の営巣場所に造巢したのち放棄し、その後、突然ヒナを発見。おそらく、水生植物教材園北側のヨシ原の中で営巣したものと思われる。

コウノトリ目 CICONIIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax nycticorax* (LINNAEUS)

22・X・1980; 22・IX, 6~7・X・1981

例年IV~IXにひょうたん池・水生に夜間飛来し、早朝飛去する。残留するのは幼鳥が多い。

ダイサギ *Egretta alba* (LINNAEUS)

24・I・1980 (1)

コサギ *E. garzetta garzetta* (LINNAEUS)

1973 年頃よりしばしば飛来するようになり、1979 年 11 月から 1980 年 3 月までは、常に 1~5 羽が

* 武蔵工業大学, Musashi Institute of Technology

** 明治学院大学, Meiji Gakuin University

*** 国立科学博物館付属自然教育園, National Park for Nature Study, National Science Museum

水生植物教材園を中心に見られた。

その後少し飛来の回数が減り、現在は水鳥の沼からいもりの池にかけて時々 1~2 羽が見られる程度となる。

ガンカモ目 ANSERIFORMES

ガンカモ科 ANATIDAE

オシドリ *Aix galericulata* (LINNAEUS)

かつて 158 羽 (27・XI・1964: 120♂・38♀) をかぞえたが、その後次第に飛来数が減少し、近年は、35~45 羽前後となる。

5・VIII・1979 (2♀型)~17・V・1980 (各 1♂♀), 最高数は、21・II・1980 (20♂・16♀): 8・VIII・1980 (1♀型)~14・VI・1981 (1♀), 最高数は、21・XI・1980 (27♂・20♀): 1981 年内は、初認は 27・VIII (1♀型), 年内最高数は、17・XI (23♂・13♀)

5・VIII・1979 の初認は、これまでもっとも早い記録であり、14・VI・1981 の終認は、もっとも遅い記録である。

飛来中の数の変動については、1980~1981 と 1981 の初めの期間について図 1 に示した。

この図からもわかるように、飛来数は雄が非常に多く、そのうえ外部との出入りははげしく、自然教育園に冬季安定した状態で生息しているとはいえない。

この傾向は雄にとくに強く現われているといえよう。

飛来時は雌型を示してはいるが、雄が早い飛来を示すように思われ、飛去は、番形成のみられなかった個体が早く去るようである。

とくに、14・VI・1981 の雌個体は、おそらく、条件さえととのえば、園内で繁殖を試みようとした番ではないかと考えられる (12・V・1981: 各 1♂♀・ひょうたん池)。

マガモ *Anas platyrhynchos platyrhynchos* LINNAEUS

4~8・XI・1979 (1♂・2♀); 15・XII・1979~9・II・1980; 31・X・1980~26・III・1981; 13, 28・XI, 24・XII・1981 (いずれも、1~2♂♀ でみられる)

カルガモ *A. poecilorhyncha zonorhyncha* SWINHOE

6・V (2), 4・XI・1979~9・II・1980; 17・V (6), 1~9・X, 27・XII・1980; 21・III~22・IV・1981; 17・XI・1981~

マガモも冬季よく飛来するようになり、カルガモも 2~5 羽くらいで飛来し、滞留日数も長くなる傾向にある。

いずれも、ひょうたん池・水生植物教材園・水鳥の沼にみられる。

カルガモについては 15・I・1982 (12) の記録がある。

コガモ *A. crecca crecca* LINNAEUS

かつては 104 羽 (15・I・1970) の飛来がみられたが、その後減少し、1980 年頃には、きわめて少なくなった。

6・V・1979 (3♂・4♀; 終認); 20・X (1), 3・XI・1979~1・II・1980; 13・IV・1980 (終認); 2 (初認), 8, 30・X (3♂・7♀)~21・XI・1980; 29・I~11・IV・1981; 3~15・X・1981; 13・XI・1981 (1♂・4♀)

多くは雄雌ともに 1~2 羽が飛来する程度である。

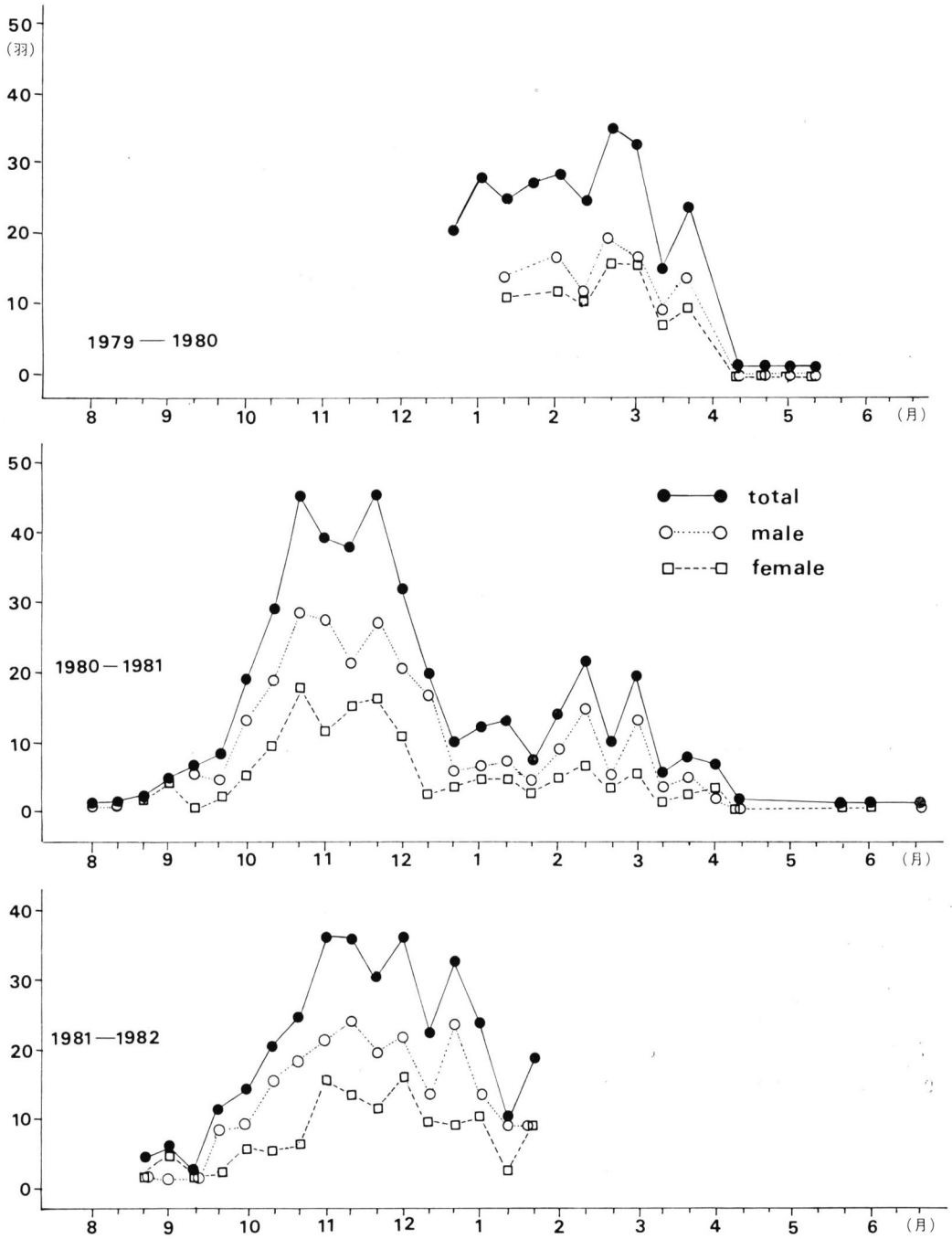


図 1. オシドリの飛来数の変化

例年数多く飛来していた時のもっとも早い初認は 21・Ⅷ・1970、もっとも遅い終認は 16・Ⅴ・1964 で、オシドリと時期を同じくしていた。

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

ト ビ *Milvus migrans lineatus* (J.E. GRAY)

5, 6, 28・Ⅹ; 4, 5・Ⅻ・1980; 24・Ⅹ・1981 (各 1)

1978～1979 年頃までは、園内を冬(例年Ⅻ～翌年Ⅱ)の塒として利用していたもので、最高数 398 羽(15・Ⅻ・1961: 高野伸二)をかぞえたこともある。現在は利用していない。

ノ ス リ *Buteo buteo japonicus* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

10・Ⅺ・1981 (1)

ハヤブサ科 FALCONIDAE

ハヤブサ *Falco peregrinus japonensis* GMELIN

13・Ⅻ・1979; 17, 30・Ⅰ・1980; 2・Ⅱ・1980; 4・Ⅱ, 20・Ⅲ, 14・Ⅹ・1981 (各 1: 上空を通過)

チョウゲンボウ *F. tinnunculus interstinctus* HORSFIELD

11・Ⅻ・1979; 24・Ⅰ・1980 (上空通過)

キジ目 GALLIFORMES

キジ科 PHASIANIDAE

コジュケイ *Bambusicola thoracica thoracica* (TEMMINCK)

最近急激に減少しているように思われる。

ネコなどによる捕食がその原因か。

トウカイキジ *Phasianus colchicus tohkaidi* MOMIYAMA (?)

Ⅲ・1981～(1♂) 飼育中逃げだした個体と思われる。旧建物跡付近の草原を中心に時々見られる。

ツル目 GRUIFORMES

クイナ科 RALLIDAE

バ ン *Gallinula chloropus indica* BLYTH

7～12・Ⅴ・1981 (1)

移動途中の個体と思われる。ひょうたん池～水生植物教材園に生息。

チドリ目 CHARADRIIFORMES

シギ科 SCOLOPACIDAE

イソシギ *Tringa hypoleucos* LINNAEUS

9・Ⅶ, 8・Ⅷ・1980 (1: 水生植物教材園); 19・Ⅳ・1981 (1: 水生)

ヤマシギ *Scolopax rusticola* LINNAEUS

12・Ⅳ (1: 湿地), 21・Ⅺ・1981 (1: ひょうたん池奥)

いずれも稀。

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

キジバト *Streptopelia orientalis orientalis* (LATHAM)

周年生息。繁殖。1978 年当時と比べると、やや生息数が減少している。

ホトトギス目 CUCULIFORMES

ホトトギス科 CUCULIDAE

カ ッ コ ウ *Cuculus canorus telephonus* HEINE

14・IX・1980 (1: いもりの池)

ホトトギス *C. poliocephalus poliocephalus* LATHAM

4・VI・1980 (1: ひょうたん池奥)

いずれも移動途中に稀に見られる。

フクロウ目 STRIGIFORMES

フクロウ科 STRIGIDAE

オオコノハズク *Otus bakkamoena semitorques* TEMMINCK & SCHLEGEL

9・XII・1981 (1: 放鳥・品川区東五反田 1~11 の路上にて保護されたもの)

アオバズク *Ninox scutulata japonica* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

17・VI・1981

1 番は毎年飛来しているらしい。夜の調査ができないため実情は不明。

フッポウソウ目 CORACIIFORMES

カワセミ科 ALCEDINIDAE

カ ワ セ ミ *Alcedo atthis bengalensis* GMELIN

24~27・VIII, 6~27・XI, 26・XII・1979; 5・IV, 18・X・1980~12・IV・1981 (各 1)

ひょうたん池から水鳥の沼に到る沢筋に見られたが、その後見られなくなる。

スズメ目 PASSERIFORMES

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

ツ バ メ *Hirundo rustica gutturalis* SCOPOLI

例年 4~9 月に見られる。園内で繁殖はしない。開水面上で採餌するのが見られる。

29・III・1981 (初認) ~ 4・IX・1981 (終認), 遅い例では, 15・IX・1965 がある。多い例は 10 羽 (26・VII・1980)

セキレイ科 MOTACILLIDAE

キセキレイ *Motacilla cinerea robusta* (BREHM)

25・VIII, 1~7・XI・1979; 9~24・X・1980; 16・IV~14・V・1981

不規則に飛来する。ひょうたん池から水鳥の沼の間を行き来する。

ハクセキレイ *M. alba lugens* GLOGER

12, 19・I (3), 21・III, 28・VI (1), 22・X・1980; 23・X, 28・XI・1981

新しい建物前などで見る。

セグロセキレイ *M. grandis* SHARPE

21~IX・1979 (2: 水生植物教材園)

ピンズイ *Anthus hodgsoni hodgsoni* RICHMOND

3・XI・1980 (1: 正門付近)

以上 2 種とも稀に飛来。

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis amaurotis* (TEMMINCK)

周年生息する。夏に幼鳥も見られるが、園内で繁殖しているかどうかは不明。

4月と10月下旬に個体数が急に多くなり、5月中旬と9月下旬～10月上旬に個体数の減少が見られた(1980年)。

この頃に、夏季の個体群と冬の個体群の入れ替りがあるのかも知れないが、詳細は不明。

モズ科 LANIIDAE

モズ *Lanius bucephalus bucephalus* TEMMINCK & SCHLEGEL

2・X・1980～10・V・1981; 14・X・1981～(1～2?)

例年1番は繁殖する。夏季に一時的に園外に去るが冬季に戻り、1～2羽が明るい開けた場所に見られる。

ミソサザイ科 TROGLODYTIDAE

ミソサザイ *Troglodytes troglodytes fumigatus* TEMMINCK

18・III・1981(1: 森の小道のアオキ中でさえずる)。

8～11・VI・1960(高野伸二)以来の記録。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ツグミ亜科 TURDINAE

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus cyanurus* (PALLAS)

5, 7・I・1982(1♀型: T字路～西側マツ林付近)

ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus auroreus* (PALLAS)

2～9・XI・1979(1♂・2♀); 1(1♂), 25・I・1980(1♀); 28・X・1981(1♂)

旧インセクタリウム付近、小鳥の森、水生植物教材園からいもりの池にかけて見られる。

トラツグミ *Turdus dauma aureus* HOLANDRE

4・X・1980(1: 放鳥)

隣接する公務員宿舎敷地内で保護された個体。

アカハラ *T. chrysolaus* TEMMINCK

1・II・1980(終認?); 17・X・1980～6・II・1981(30・X; 1・XI・1980: 3); 29・IV・1981(1: さえずる・終認)

森の小道付近によく見られるが、数は少ない。暖かい時には、さえずるのが見られる(17・X・1980)。

飛来当初は、エノキの実を採食していたが、やがて地上で行動するようになる。

シロハラ *T. pallidus* GMELIN

29・IV・1980(終認); 30・X・1980(初認)～8・IV・1981(終認); 5・XI・1981(初認)～

8・III・1980(7), 5・XI・1981(6)は、多い数。三叉路付近、小鳥の森付近に多い。

マミチャジナイ *T. obscurus* GMELIN

28・IX～31・X・1980(14: 9・Xが最高数)

この1980年は、森の小道のキズタの捲くムクノキに好んで飛来し、採餌していた。

この木には、シメ・イカル・ムクドリ・コムドリなど、他の鳥も集まる。

ツグミ *T. naumanni eunomus* TEMMINCK

8・XI・1979(8)～9・II・1980(3); 30・X・1980(2)～29・IV・1981(1); 10・XI・1981(6)

ツグミ類では、もっとも多く飛来する。1980～1981 年は、前年より数も多く飛来した。

ウグイス亜科 SYLVIINAE

ウグイス *Cettia diphone cantans* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

6・IV・1979～8・V・1980; 12・X・1980～21・IV・1981; 28・X・1981～

センサスで得た最高確認数は、1980～1981 年度で 6 羽 (6・II・1981) であるが、これまでには 7 羽 (11・XII・1966) の記録がある。

初轉鳴の記録は、4・IV・1963; 8・III・1966; 15・III・1977; 28・II・1978; 9・III・1979; 8・III・1980; 15・III・1981 がある。

オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus orientalis* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

17～30・VI・1979; 23・IV, 5～7・V・1981

水生植物教材園、武蔵野植物教材園でさえずるのが聞かれる。

メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (BLASIUS)

5・X・1980 (1)

秋の記録は初めてである。

エゾムシクイ *P. tenellipes* SWINHOE

2・X・1980; 29・IV・1981 (各 1)

三叉路からひょうたん池の間に見られる。

1981 年の個体は、さえずりを聞かせる。

センダイムシクイ *P. occipitalis coronatus* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

16・IV, 2, 5・V・1980 (1); 19, 29・IV, 3・V・1981 (各 1)

例年、春の移動途中に立ちより、正門付近、小鳥の森付近、水鳥の沼などでさえずるのを見る。

ヒタキ亜科 MUSCICAPINAE

キビタキ *Ficedula narcissina narcissina* (TEMMINCK)

3～6・XI・1979; 28・IX～3・XI・1980; 26・IV・1981; 23・IX～20・X・1981

6・XI・1979 (5), 5・X・1980 (8), 7・X・1981 (3) が各年の最高確認数である。

26・IV・1981 の 1♂ は、森の小路でさえずっていた。

例年、春、秋の移動時に見られるが、春は不定である。秋の個体は、多く♀型であるが、6～7・X・1981 には♂を見る。

ひょうたん池の水面に向って伸るミズキやサクラの枝に止まっているのをよく見るが森の小道にもよく見られる。

地上で採餌していた例もある (4・XI・1979)。

ムギマキ *F. mugimaki* (TEMMINCK)

22・IX・1981 (1♀)

いもりの池付近で見る。10・X・1960 (♂幼) (高野伸二) 以来の記録である。

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana* (TEMMINCK)

5, 29・IV・1980 (1♂); 9・X・1981 (1♀)

突然現われることが多い。森の小道、正門付近で見られる。

サメビタキ *Muscicapa sibirica sibirica* GMELIN

21・IX・1980 (3); 9・X・1981 (1)

ひょうたん池付近のカラスザンショウの枝に止まっているもの (1980), いもりの池付近の木の枝に止っているもの (1981) を見る。

エゾビタキ *Muscicapa griseisticta* (SWINHOE)

21・IX (1), 5 (3) ~ 17・X・1980; 30・IX ~ 7・X・1981

8・X・1980 (5), 6・X・1981 (4) が各年の最高記録数である。

ひょうたん池周辺, 旧インセクタリウム付近の高木の梢によく見る。

コサメビタキ *M. latirostris* RAFFLES

21, 28・IX (各 1), 5 ~ 17・X・1980; 4 ~ 7・X・1981 (2)

ひょうたん池付近で見ることが多い。水生植物教材園で水浴びをみる (7・X・1981)。

エゾビタキ, コサメビタキとも木の冠部や枝先で見られるのに対し, キビタキは, 樹冠内部, 枝の基部で見ることが多い。

カササギヒタキ亜科 MONARCHINAE

サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (EYTON)

1・VI・1973 (大野正男)

エナガ科 AEGITHALIDAE

エナガ *Aegithalos caudatus trivirgatus* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

2 ~ 3・XI・1980 (1)

稀に飛来。

シジュウカラ科 PARIDAE

ヒガラ *Parus ater insularis* HELLMAYR

23, 30・X (2), 2, 4・XII (1)・1980; 17・I, 4・II, 5・IV・1981 (1)

1980 ~ 1981 にかけて 1 羽のみシジュウカラの群に混っていたように思われる。

ヤマガラ *P. varius varius* TEMMINCK & SCHLEGEL

3 ~ 8・XI・1979; 17・V, 11・X ~ 7・XII・1980; 29・III, 29・X ~ 14・XI・1981; 16・XII・1981 (各 1 ~ 2)

水鳥の沼前のエゴノキ, ひょうたん池のツクバネガシなどで見られる。

シジュウカラ *P. major minor* TEMMINCK & SCHLEGEL

繁殖・40 番前後が繁殖する。1 番の縄張りは, 約 0.4 ヘクタールと推定されている。

暖かい時には, 冬季でもさえずるのが聞かれる (7・II・1978; 16・I・1981)。

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

メジロ *Zosterops japonica japonica* TEMMINCK & SCHLEGEL

冬季に多いが, 夏にも見られる。VI・1980 には小鳥の森でさえずるのを聞く。

夏季は 1 ~ 2 羽, 冬季は 1 ~ 10 羽程度で見る。これまでの最高数は, 62 羽 (26・X・1961; 高野伸二) の記録がある。

3・XI, 15・XII・1979; 10・I ~ 9・II・1980; 28・IX・1980 ~ 18・IV・1981; 23・IX・1981 ~ など冬よく見られる。

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis* BONAPARTE

29・Ⅲ (1♂), 28・Ⅹ (1♂)・1981

武蔵野植物教材園で繁殖が確認されたこともあるが (Ⅴ・1975), 現在は, 時々見られる程度である。

これまでの確認最高数は, 3 羽 (19~25・Ⅰ・1975), 同営巣数は, 1 番だけである。

カンラダカ *E. rustica latifascia* PORTENKO

7・Ⅺ~8・Ⅻ・1979; 22・Ⅹ~27・Ⅺ・1980; 2~28・Ⅲ・1981; 5・Ⅺ~3・Ⅻ・1981

冬季間長期の滞留はしない。通常 1~2 羽で見られるが, 時には 4~5 羽を見る。

例年毎冬に 飛来するが, 個体数はあまり多くない種である (5: 29・Ⅲ・1965; 6: 18・Ⅺ・1981), 遅くまで見られた記録に (22・Ⅳ・1973) がある。

ア オ ジ *E. spodocephala personata* TEMMINCK

例年 10 月から翌年 4 月にかけて滞留する。

初認, 終認, 最高記録数は, 7・Ⅹ・1972~6・Ⅴ・1973 (13: 14・Ⅳ・1973); 14・Ⅹ・1973~5・Ⅴ・1974 (13: 9・Ⅻ・1973); 31・Ⅹ・1974~27・Ⅳ・1975 (9; 15・Ⅳ・1975); 20・Ⅹ・1979~26・Ⅳ・1980 (4~5); 2・Ⅹ・1980~3・Ⅴ・1981 (12; 30・Ⅹ・1980); 28・Ⅹ・1981~(5: 18・Ⅺ・1981) となっている。

近年は, 以前ほど個体数は多くなっている。

ク ロ ジ *E. variabilis* TEMMINCK

24・Ⅹ (1♀), 16・Ⅺ (2♂・冬羽)・1980; 26・Ⅳ (1♀), 13・Ⅺ~16・Ⅻ・1981 (1♀); 18・Ⅺ・1981 (1♂); 30・Ⅰ・1982 (1♀)

三叉路やいもりの池付近で見られる。これまでの最高確認個体数は 4 羽 (26・Ⅳ・1963) で, 移動途中に立ち寄るものと考えられえいたが, 1981~1982 年の冬は, 1♀ が越冬しているように思われる。

アトリ科 FRINGILLIDAE

カララヒワ *Carduelis sinica* (LINNAEUS)

7・Ⅺ・1979~10・Ⅰ・1980; 23・Ⅳ・1980 (1980 年は, Ⅲ・Ⅷ~Ⅹ に未確認); 17・Ⅱ~21・Ⅲ, 2・Ⅹ, 13~20・Ⅺ, 12~27 (時々)・Ⅻ・1981

最近では, 1~5 羽見られるが, 5~10 羽 (2~14・Ⅴ・1963) 7 羽 (10・Ⅳ・1975) などの記録もある。

個体数が多いという種ではないが, 市街地でもよく繁殖の見られる鳥であり, 本園との移出入があるのかも知れない。

3 月に入ると玉をころがすような美しい声がかかれる。

マ ヒ ワ *C. spinus* (LINNAEUS)

5・Ⅳ・1981 (1)

4・Ⅰ・1962 (高野伸二) 以来の記録である。10 羽 (11・Ⅳ・1961: 高野伸二) の記録もある。

ウ ソ *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* LAFRESNAYE

27・Ⅻ・1981

イ カ ル *Eophona personata personata* (TEMMINCK & SCHLEGEL)

22・Ⅹ・1980 (2) 稀に飛来する。

シ メ *Coccothraustes coccothraustes japonicus* TEMMINCK & SCHLEGEL

7・Ⅺ・1979~26・Ⅳ・1980 (5: Ⅳ・1980); 19・Ⅹ (3)・1980~3・Ⅴ・1981 (8: 1, 21~22・Ⅳ・1981);

5・XI・1981 (5: 16・XII・1981)

例年 1 月から翌年 4 月頃まで滞留する。

19・X・1980 は早い時期の初認例であり、3・V・1981 は、遅い時期の終認例になる。

普通 5 羽程度の個体が単独で見られ、沢筋を主に行動する。地上で採餌することもある。

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

スズメ *Passer montanus saturatus* STEJNEGER

年々園内の中央部に入りこむようになった。

冬季は、群で見られるが、1981 年では、旧建物跡の草地に常に見られる。

個体数は、夏季に多く、冬季が少ない。

園内での繁殖は、未確認である。

ムクドリ科 STURNIDAE

コムクドリ *Sturnus philippensis* (FORSTER)

28・IX (7+), 1, 9, 18・X・1980; 22・IX・1981

森の小道のムクノキに、ムクドリに混り群る。

例年、9 月に見ることが多い。個体数の多い記録は、40 羽 (19・IX・1964: 宇山大樹), 30 羽 (19・IX・1965), 10 羽 (18・IX・1974) などがある。

ムクドリ *S. cineraceus* TEMMINCK

かつては秋に数百羽の群で飛来し、採餌、水浴びなどが見られたが、現在は、前ほど個体数も多くなく、飛来の頻度も低くなっている。

26・XII・1979 (308); 28・IX・1980 (150+); 5・X・1980 (80) などの記録がある。

園内で繁殖の記録はない。

19・VIII (280~300 羽・ひょうたん池上); 19・XII (700 羽・森の小道); 1963; 8・VII (168 羽), 26・VII (154 羽), 9・VIII (203 羽)・1973 はこれまでの多い例。

カラス科 CORVIDAE

カケス *Garrulus glandarius japonicus* TEMMINCK & SCHLEGEL

9・X・1979~18・IV・1980; 1・X・1980~3・IV・1981; 8・X・1981~

普通 2 羽が多いが、5 羽 (1・XI・1980), 3 羽 (8・X・1981) をかぞえることもある。1960 年代から徐々に飛来数が少なくなっているようであり (7: 15・X・1963 など)、不規則になっている。

オナガ *Cyanopica cyana japonica* PARROT

1972 年頃より毎日飛来するようになった鳥で、都市型鳥類の 1 種である。

夏季は、1~2 羽の記録が多いが、冬季は、10 羽前後の群が見られる。

以前は、35 羽の群 (22・XI・1963), 24 羽の群 (7・II・1974) の記録もある。

ハシボソガラス *Corvus corone orientalis* EVERSMAAN

1973 年以前よりは、やや冬鳥的傾向を示しているかも知れない。

4・XI・1979~23・IV・1980; 31・X・1980~7・V・1981; 22・IX・1981~

普通は 2~30 羽であるが、1980 年の 1~3 月の時々 100 羽になろうかという数が見られた。

ひょうたん池奥のムクノキに多く見られる。

ハシブトガラス *C. macrorhynchos japonensis* BONAPARTE

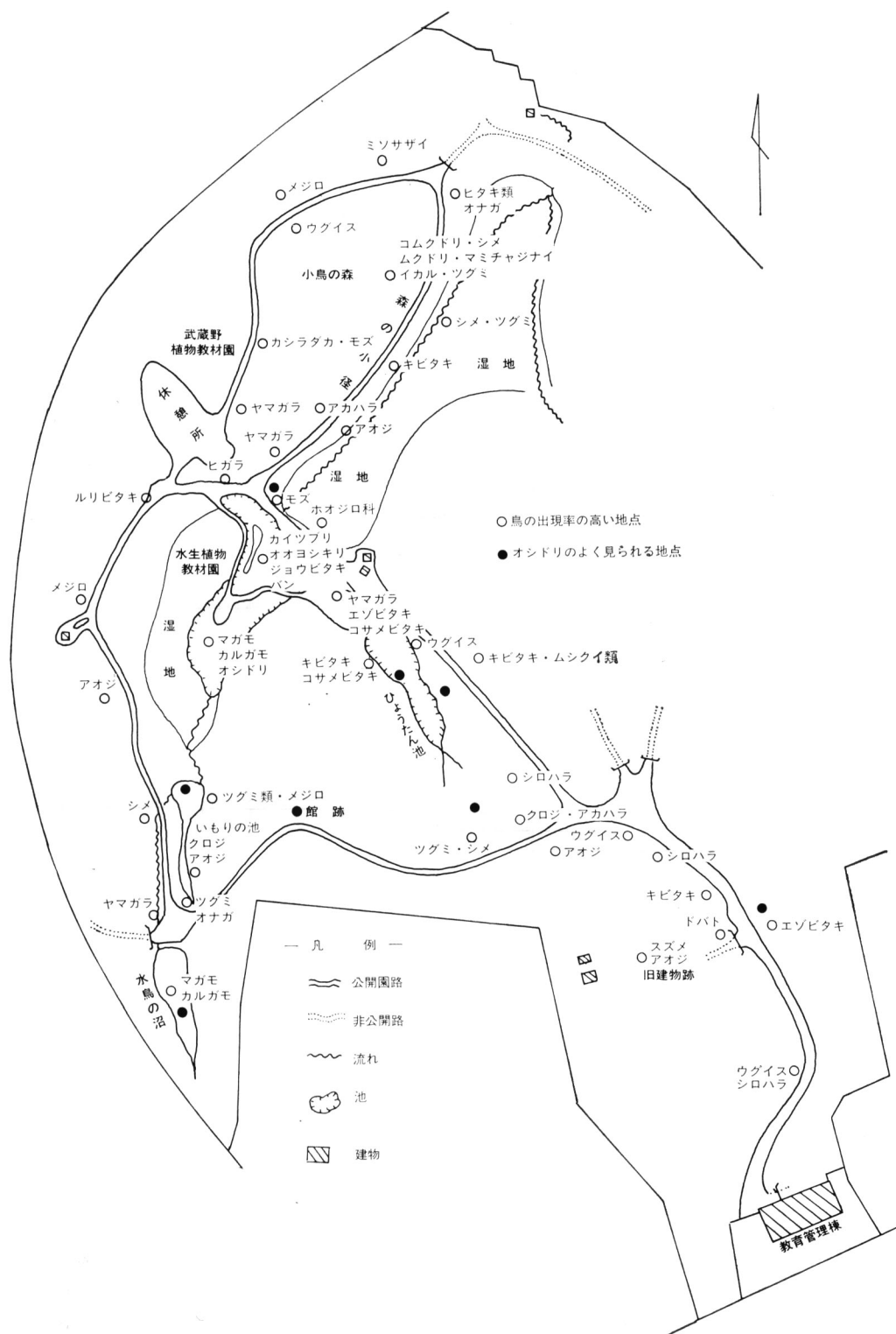
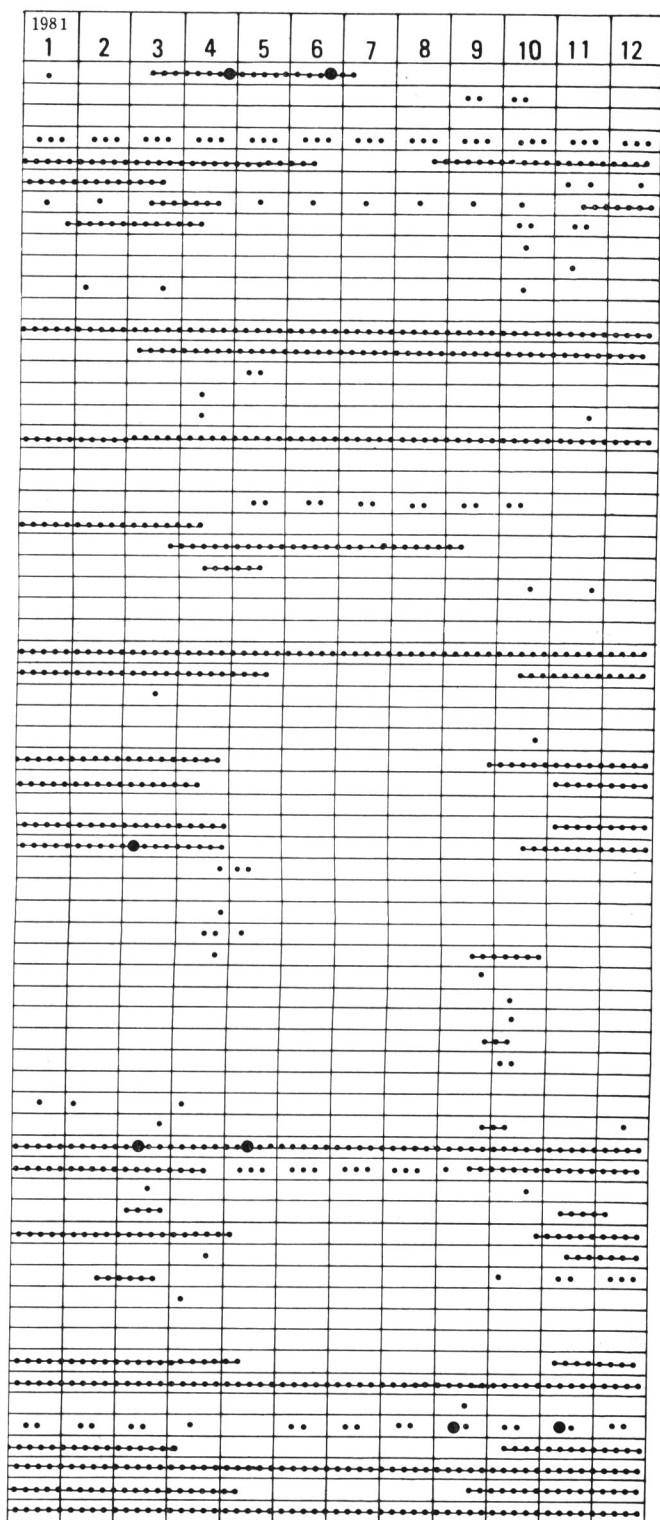


図 2. 鳥類の出現度の高い地点と種名

表 1. 自然教育園鳥類群集出現調查集計表

[illegible]



繁殖：1～5 巣まで数えられる：夏はやや少なくなるが，冬期は峙として集まる。

1963 年は，180～200 羽，1965 年は，250～350 羽，1975 年は，500 羽以上，1979 年は，800 羽以上，1980 年 1 月は，850 羽，現在 1,000 羽以上が就峙していると推定される。

現在，日中でも 120～150 羽は，園内に残る (XII・1981)。

以上，最近の観察記録を記したが，全般的に見て，草原性，開闊地性の鳥類が少なくなり，森林性の鳥類が目にとまるようになっている。

しかし，極度に森林性を示すとされる鳥類は，以前と同じく観察されず，このへんに都市林の特性が示されているのかも知れない。

都内の各地域の鳥類群集との比較などについては，改めて検討の予定であるが，自然教育園の利用の面から，比較的その種の見られる地点，およびここ 2 年余の年間の出現生息表を示しておいた。